

緑化樹等の樹木病害に対する防除薬剤の効率的 適用化に関する研究

1 中核機関・研究総括者
(独)森林総合研究所
楠木 学

2 研究期間
2003～2006年度(4年間)

3 研究目的

樹木類に発生する病害を対象とした防除薬剤はほとんど農薬登録がとられておらず、苗木生産者や樹木医など管理者は病害防除に農薬を使用できない。また今後もメーカー主導による適用拡大は見込めないことから、集団的かつ広範囲に発生し生産者や管理者の間で問題になっている病害群について、新たな防除法の開発や農薬の薬効・薬害試験を実施し、樹木病害防除に有効な農薬の適用拡大を進める。

4 研究内容及び実施体制

カシ・ナラ類枝枯細菌病の病原細菌及びその潜在部位の簡易識別法の開発
(独)森林総合研究所、福岡県森林林業技術センター)

遺伝子等を用いた病原細菌の潜在部位等の解析及びこの病気に対する防除農薬の開発を行う。

樹木ファイトプラズマ病に対する樹幹注入防除法の開発(独)森林総合研究所、福岡県森林林業技術センター)

原体の水溶性化や樹幹注入法の開発を行い、樹木ファイトプラズマ病防除法の開発を行う。

主要樹木病害に対する有効農薬の解明(東京都農業試験場、埼玉県農林総合研究センター、福岡県森林林業技術センター、島根県中山間地域研究センター、宮崎県林業技術センター、(独)森林総合研究所)

うどんこ病やさび病など頻度高く発生する9～10系状菌病害群に対し、各3樹種を供試して農薬の薬効・薬害試験を行い農薬の適用拡大に必要な試験データを取得する。

5 目標とする成果

九州地域のカシ類苗木生産苗畑で猛威をふるっているカシ・ナラ類枝枯細菌病、街路樹等ホルトノキ成木の集団枯損を起こすファイトプラズマによる萎黄病、うどんこ病など広い地域で高頻度に発生する9～10系状菌病害群に対する薬剤防除ならびに樹幹注入防除法が確立される。この研究で得られたデータを元に、緑化樹等樹木病害防除農薬の適用拡大が進むことで、苗木生産者、緑化樹管理者等がそれぞれの管理現場に発生した樹木病害防除に農薬を適正に使用し、これら緑化樹を健全に管理することで、樹木類が持つ景観の形成や環境の保全など様々な公益的機能が果たされることが期待される。